

～令和4年度経済産業省「地域新 MaaS 創出推進事業」～
AI オンデマンド交通等による「エキ・シロ MaaS」実証実験を11月7日に開始します

名古屋鉄道は、内閣府・総務省・経済産業省・国土交通省が連携し選定する令和4年度スマートシティ関連事業のうち、経済産業省「無人自動運転等の CASE 対応に向けた実証・支援事業(地域新 MaaS 創出推進事業)」の実証事業に関わる受託事業者を選定され、名古屋大学、NEC ソリューションイノベータ、エクセイド、未来シェア、円頓寺商店街振興組合、名鉄グループ各社と連携して、名鉄栄生駅を中心とした名古屋市内において「エキ・シロ MaaS」の実証実験を、2022年11月7日から12月9日まで実施します。

詳細は下記のとおりです。

記

1. 実証実験について

(1) 実施期間

2022年11月7日(月)～12月9日(金)

※円頓寺商店街での自動運転技術検証は2022年11月23日(水・祝)～26日(土)に実施予定

(2) 目的

- ・地域住民の総合病院等への施設送迎ニーズの把握(平日)
- ・来街者の交通結節点(栄生駅)から観光地等へのアクセスニーズの把握(土休日)
- ・観光地内周遊モビリティとしての自動運転の検討(4日間)

本事業を通して、利用者の意向の把握やモビリティ向上による地域内周遊促進効果を検証し、事業化モデルの検討を行うことを目的とします。

(3) 対象地域

名鉄栄生駅を中心とした約半径2キロ圏域(名古屋市中村区・西区の一部)

※名古屋城・円頓寺商店街など多彩な魅力がある大都市中心部

(4) 背景

当該地域は行政区境があるため、区内が対象となる路線バス等では総合病院や大規模商業施設への移動および地域内に点在する観光施設や商店街の周遊がしづらい状況にあるため。

(5) 主な取り組みの内容

本事業では、①対象地域に AI オンデマンド交通を導入し、居住者の通院・買い物等のモビリティ向上を図るとともに、来街者(主に土休日)の観光施設・商店街・大規模商業施設への地区内周遊促進を図ります。また、マイクロ MaaS アプリ(WEB 版)と連動してクーポン発行を行い、地域活性化につなげます。加えて、②円頓寺商店街での自動運転サービスの技術検証を実施します。

<マイクロ MaaS (WEB 版) 画面イメージ>



【URL】

<https://maas.meitetsu.co.jp/ekishiro/>



① AI オンデマンド交通

- 対象地域: 名鉄栄生駅を中心とした約半径 2km 圏域(名古屋市中村区・西区の一部)
- 対象者: 対象地域の居住者および対象地域への来街者
- 車両手配: オンデマンド交通用のタクシー車両以外に、学童保育事業の送迎車両を活用し、AIにより配車やルート等が最適化されたオンデマンド交通運行計画に従って運行します。
- 運行時間: [施設送迎] 平日 8 時～13 時(学童保育事業の送迎車両およびタクシー車両を使用)
[観光周遊] 土休日および一部の平日 10 時～18 時(タクシー車両を使用)
- 運賃: 無料
- 予約方法: 電話予約およびマイクロ MaaS アプリ(WEB 版)から配車予約

<学童保育事業の送迎車両>



<タクシー車両の外観イメージ>



② 自動運転サービス

- 対象地域: 円頓寺商店街内(公道走行)
- 対象者: 商店街関係者、来街者
- 車両: グリーンスローモビリティ(カート) 予定
- 運行時間: 11 月 23 日(水・祝)～26 日(土) 11 時～16 時
- 運賃: 無料
- 利用方法: 自動運転車両(カート)は円頓寺商店街内の決められたルートを実行し、利用者は乗降地点で参加登録を行うと自由にご利用いただけます。

<カート イメージ>



<取り組みのイメージ>



2. 実施体制

組織名	役割
名古屋大学	全体統括補佐、自動運転サービス導入、報告書とりまとめ等
NECソリューションイノベータ	運行監視システムの技術検証、動画データの利活用方法検討
エクセイド	自動運転サービスの実施
未来シェア	AIデマンド交通の配車システム提供 (API連携)
円頓寺商店街振興組合	周遊クーポン企画、自動運転走行フィールドの提供
名古屋鉄道	実施主体、全体統括、MaaSアプリ開発、名鉄グループ調整等
名鉄タクシーホールディングス	タクシー車両・ドライバーの提供
名鉄スマイルプラス	学童保育事業の車両の共有
名鉄バス	AIデマンド交通の運行管理、電話受付
電通名鉄コミュニケーションズ	広告媒体の制作



本件は、名鉄グループ中期経営計画「Turn-Over2023 ～反転攻勢に向けて～」(2021～2023 年度)の重点テーマに掲げる「交通事業の構造改革」および「DXの推進」の一環として取り組むものです。